

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2020年4月）

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	JFE商事	エムエム建材
1. 需給動向(景況感)	国内需要については全ての業界で新型コロナウイルスの影響が出ており、荷動きが非常に低調。建築設備向けの需要は、4月14日以降、緊急事態宣言下にある7都道府県の工事休止もしくは個別協議とする事が一部のゼネコンより発表された。既に工事休止が確定している現場もあり、今後どこまで影響が拡大するか予断を許さない状況にある。 プラント設備向けでは3月より鹿島及び川崎地区で改修案件が始まり、4月も引き続き堅調であるが、今後コロナウイルスの影響で工事の進捗が不安視されている。その他の案件についての荷動きは低調。鋼管問屋の荷動きも悪く、出荷量減に伴い在庫過多が見えられ、発注数量の調整をしている状況。一部メーカーからは既に発注済みの明細について、注文訂正を受け付ける方針も聞こえてきている。	2020年2月末の薄板3品在庫については、448.4万トン(前月比+4万トン(前年同月比+7.6万トン)と増加し、在庫率は2.9か月であった。 在庫内訳として、メーカー在庫205.7万トン(前月比▲1.4万トン)問屋在庫93.6万トン(前月比+4.7万トン)コイルセンター在庫149万トン(前月比+0.8万トン)となった。 品種別では、熱延鋼板が223.5万トン(前月比+5.3万トン)冷延鋼板が91.6万トン(前月比;0.3万トン)表面処理鋼板が、133.3万トン(前月比▲1.6万トン)となった。	2020年2月末の全国厚中板在庫は417.9千トンで前月比5,828トンの減となった。受入は前月比8,303トン増、出荷も前月比4,034トン増。出荷量は前月比増だが、依然低水準で推移しており、在庫調整局面が続いている。在庫率は前月比11.8ポイント減少し、280.6%となった。海外需要停滞およびコロナウイルス影響により建産機はじめ総体的に需要の落ち込みが見られる。建築についても人手不足はじめ、オリンピックの延期、コロナウイルス影響等により、更なる工事の遅れが懸念される。足元、市況を反転させる材料に乏しく、今後も弱含みで推移すると思われる。	棒鋼:マンション需要は依然低迷しているが、首都圏の再開案件や物流倉庫案件等もあり、鉄筋需要は盛り上がりには欠けるが、底堅く推移の見通し。 形鋼:H形鋼に関し、2019年度のときわ会ベース全国出荷量は74.6千トン/月と、前年度比▲11.9%のレベルで推移した。 春先以降、小口建築案件の回復の兆しはあるが、新型コロナウイルス問題による案件施工への影響について、注視の必要あり。
2. 需要産業動向	・自動車: 20年2月の四輪車生産台数/73.4万台(前年同月比▲10.8%)。 20年3月の国内販売台数/58.1万台(前年同月比▲9.3%)。 20年2月の完成車輸出台数/37.5万台(前年同期比▲5.3%)。 ・建産機: 20年2月の建設機械総出荷額/2,003億円(前年同期比▲15.7%、内訳として国内+0.4%、輸出▲24.1%)。 ・建築: 20年2月 住宅/6.3万户(前年同期比▲12.3%)。 20年2月 非住宅/340万m2(前年同期比▲2.2%)。 ・土木: 20年2月 公共土木工事受注額/84.9百億円(前年同期比+19.3%)。 20年2月 民間土木工事受注額/37.6百億円(前年同期比+42.5%)。 ・造船: 20年2月 起工量/84万G/T(前年同期比▲24.0%)。 20年2月 輸出船契約量/67万G/T(前年同期比▲6.9%)。 20年2月末 手持工事量/1,783万G/T(前年同期比▲28.6%)。	2月度の国内販売台数(輸入車含む)は43万台で、前月比+19.4%(前年同月比▲10.2%)となった。 内訳は乗用車が36.2万台で、前月比+20.2%(前年同月比▲9.8%)、トラックは6.7万台で前月比+15.1%(前年同月比▲12.9%)バスは0.1万台で前月比+55.4%(前年同月比+1.8%)であった。 2月度の民生用電機機器の国内出荷金額は、1,655億円で、5か月連続のマイナス(前年同月比▲10.8%)製品別内訳としては、電機冷蔵庫は283億円で2か月ぶりのマイナスで、(同▲23.2%)電機洗濯機は274億円で3か月連続のマイナス(同▲16.6%)であった。 2月度の新設住宅着工戸数は63,105戸、前年同月比▲12.3%であった。利用別では、持家は前年同月比▲11.1%で7か月連続の減少。貸家は同▲18.9%で18か月連続の減少。分譲住宅も同▲3.9%で4か月連続の減少となった。	造船の3月末輸出船手持工事量は1,740万G/T(前年同月比30.8%減、前月比2.5%減)。1998年度末以来、21年ぶりの低水準に沈んでいる。1月以降 新造船談話がほぼ停止し、厳しい事業環境が続いている。 建設機械の2月の出荷金額は内需が815億円(前年同月比0.4%増)、外需は1,188億円(同24.1%減)、総合計では2,003億円(同15.7%減)。総合計では5ヶ月連続の減少となった。外需では中近東が2ヶ月連続で増加したが、その他8地域が減少し、外需全体では減少となった。 産業機械の2月受注金額は内需が2,119億円(前年同月比16.8%減)、外需は971億円(同24.5%増)、合計で3,091億円(同7.1%減)。ボイラ・原動機はじめ、圧縮機、運搬機械等6機種が前年同月比で減となった。直近エンドユーザーの工場停止の発表が出始めており、今後更なる下振れリスクが懸念される。 建築ファブはグレード関わらず仕事量が減少しており、先納期を前倒ししながら数量を確保している。	棒鋼:不動産経済研究所による首都圏マンション販売戸数に関し、2019年度は28,563戸、前年度比▲22.0%とのレベルにて、1992年度以来、30,000戸を下回る水準。 形鋼:建築に関し、2019年度の鉄骨需要量は450万トン(前後(推定)と前年度508万トン(推定)比▲11.4%となり、2011年度431万トン(推定)以来の低い水準となる見通し。 2020年度に関し、従来は秋口以降、首都圏の再開案件を中心に建築需要は盛り上がりの期待があったが、新型コロナウイルス問題の影響もあり、先行きの動向は不透明な状況。
3. 輸出入動向	2020年2月度鋼管輸出货量 継目無鋼管:27,568トン(前月比+73.8%) 溶接鋼管:25,551トン(前月比+17.0%) 2020年2月度鋼管輸入量 継目無鋼管:969トン(前月比▲31.3%) 溶接鋼管:11,483トン(前月比▲7.9%)	2月度の輸入鋼材入着量は、24.3万トンと前月比▲2.6万トン(前年同月比▲7.5万トン)であった。製品別では熱延鋼板が11.2万トンで前月比+0.1万トン(同▲2.1万トン)、冷延鋼板が5.6万トンで前月比▲1.4万トン(同▲3.9万トン)、表面処理鋼板が、7.5万トンで同▲1.3万トン(同▲1.5万トン)であった。	2月の輸入通関実績は30.7千トン。前月比4,016トン減。韓国、中国、台湾とも入着量減となっている。 2月の鉄鋼輸出実績は190.8千トン。前月比5,967トン増。韓国向け19千トン減、中国向け11千トン増、台湾向け8千トン増、タイ向け6千トン増。	棒鋼:2019年度4-2月の小形棒鋼輸出货量は16.9千トン/月と前年同期比▲4.6%、輸入量は5.4千トン/月と前年同期比+44.5%となった。 形鋼:2019年度4-2月のH形鋼輸出货量は13.7千トン/月と前年同期比▲23.8%、輸入量も7.6千トン/月と前年同期比▲5.8%となった。
4. 海外市場動向	〈ラインパイプ〉中東サウジ/UAE/カタールで開発用の引合が寄せられている他、豪州では大型案件も計画されている。一方でコロナ及び原油価格の低迷を受け、一部案件ではプロジェクトの延期や遅延の可能性も出ている為、案件動向について注視が必要。 〈油井管〉コロナウイルスの影響を受け、WTIは、2019年10月時点の\$52-53/バレル台から\$20-24/バレル台まで落ち込んでいる。米国のリグカウントも、半年前に比べると更に落ち込み、先行き不透明感が一層大きくなっている。 中東湾岸産油国や、ヨーロッパやアフリカ、インド・パキスタン含めたアジア地域等も客先によっては現行契約につき約20-30%の値引き要請が出始めており、今後の動きに注視が必要。	3月度の中国粗鋼生産量は、7,898万トンと前年同月比▲1.7%であった。新型コロナウイルス流行に伴う国内外の需要低迷で打撃を受け、3月中旬の在庫は14年ぶりの高水準に達した。 1-3月の粗鋼生産は、前年同期比+1.2%増の23,445万トンであった。一部の鉄鋼メーカーは減産をしているが、足元は下流部門で鉄鋼需要の急激な回復の兆しもあり今後注視が必要。	コロナウイルスの拡大により各国の荷動きは極めて低調。中国は3月以降 経済活動を再開し、建築需要が回復し始めているが、1-2月の春節前後に急減速した影響で国内在庫は膨らみ、3月は輸出货量が急増している。今後も輸出が増える懸念があり、国際需給を大きく揺さぶる可能性がある。	中国:新型コロナウイルスの影響をいち早く脱した国として、堅調な建設需要に下支えされ、建材需要は旺盛。市況も他アジア圏と比較し高い水準で推移。 ASEAN:新型コロナウイルスに伴う各国のロックダウンにより商談もストップ。需要は著しく低調、商談も行われていない様子。各国ロックダウンを4月末まで延長しているが、この動向が市況にも大きな影響を与えると思われる。 北米:新型コロナウイルスの影響で建設工事はストップ、需要が低迷している一方で、スクラップの解体工事も中止されており、スクラップ需給に大きな変動はない様子。
5. トピックス		月例経済報告では、景気は新型コロナウイルスの影響により、足下で大幅に下押しされており厳しい状況にある。先行きについても感染症の影響による厳しい状況が続くと見込まれ、日本銀行は企業金融の円滑確保に万全を期すとともに、金融市場の安定を維持する観点から金融緩和の強化を決定した。		